

令和元年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

八百津町

◆配属部署

教育委員会 生涯学習課

◆家庭教育支援員の役割

少子高齢化社会、インターネットの普及による社会の変化、人間関係の希薄化など現代社会の抱える課題は複雑化、多様化している。本町では、乳幼児学級（0歳児から3歳児の保護者や養育者対象）、保育園での家庭教育学級、小中学校での家庭教育学級を連携させ、より深い人間関係の構築や求められる家庭教育の充実を図ることに重点をおいている。

また、発達障がいを含む子育ての悩み相談窓口として、教育委員会に窓口を設置し、教育相談アドバイザーの訪問などを通して、きめ細かな体制を整えている。

◆主な活動

■「乳幼児学級」

- ・町内を三つの地域に分けて、乳幼児を持つ家庭の親子や養育者を対象に募集する。
- ・年間10回の家庭教育学級を開設し、それぞれの地域での活動及び全体での活動を行っている。
- ・食育に関する学習、さつまいも堀り体験、クリスマス会、英語の体験活動、絵本ライブ、遠足などの行事を中心にしている。
- ・学級生の子育てに対する不安や悩みを共有することで、忙しさからくる不安や母子の情緒の安定の場ともなっている。

■「保育園における家庭教育学級」

- ・八百津町内の乳幼児と保護者やこれから親になる方を対象に「ちびっこ広場」を開催し、子育て講演会や親子コンサートなど実施している。
- ・本町には公立保育園3校と私立保育園1校があり、園長会を中心に連携しながら家庭教育を進めている。
- ・保育園児の育て方、子どもの生活習慣の育て方、親の役割などさまざまな保護者のニーズに応える学級がもたれている。
- ・保育園と小学校との連携においては、教育委員会が事務局となって、「子育て支援ネットワーク会議」を定期的に関き、保育園と小学校との連携強化を図っている。

■「小中学校の家庭教育学級」

- ・家庭教育学級の講師として、栄養教諭を招き、食の大切さを学んでいる。
- ・学校行事に合わせて、参加者を多くする工夫がなされ、年々家庭教育に対する関心が高まってきている。
- ・「情報モラル教育」が多く開催され、専門業者による講習会、専門的な知識を持つ人の講演会がすべての学校で開催されている。
- ・情報端末をもつ児童生徒は約6割、ゲーム機にいたっては8割を超える状況にあって、保護者の関心を高めることが大切にされている。

◆成果

- 本町は大きく3つの「家庭教育」が存在しているが、同じ環境で育っていく子どもにとっては深くかわりを持っている。したがって、それぞれの家庭教育が理解し、連携することが出来上がってきた。
- 従来の家庭教育の内容だけにこだわらず、現在の状況に合わせた内容が多く実施されたり、保護者のニーズに合わせた内容が多くなっている。
- 少子化に伴い、参加人数は減少しているが、少人数を生かした、きめ細かく、深い学びができていく。
- 現代社会が抱える課題、「情報モラル」「読書活動」「食育」「いじめ問題」など子育てに必要な内容が充実してきた。

◆問い合わせ先

八百津町教育委員会 生涯学習 河合 透

(0574-43-0390(内2515))